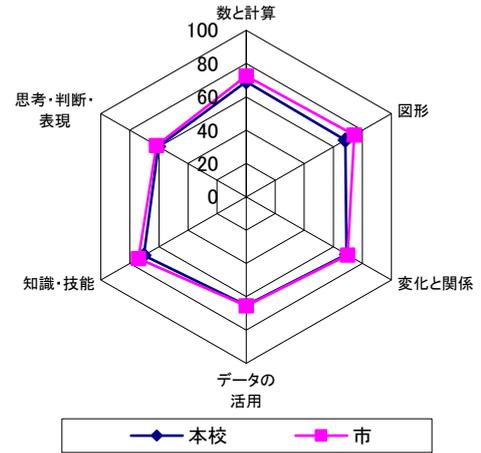


宇都宮市立細谷小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	69.1	72.6	71.6
	図形	68.2	74.4	72.0
	変化と関係	69.1	69.8	62.6
	データの活用	65.2	65.5	59.1
観点別	知識・技能	70.4	74.1	68.9
	思考・判断・表現	60.4	61.6	63.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○「面積が一定の平行四辺形の底辺と高さの関係を表した式を選ぶ」ような思考・判断・表現を問う問題の本校正答率が77.3%で、市74.6%の正答率より2.7ポイント高かった。 ●「分数の除法の文章問題にあった式を選ぶ」形式の本校正答率が28.8%で、市43.7%の正答率より14.9ポイント低かった。	・数と計算については、小数・分数など身に付けた正しい知識や技能を使って、図で考えたり、友達の意見を聞いて判断したり、自分の考えを表現したりする場面を授業の中に設けていく。
図形	○「三角形の内角の和が180°であることを理解し、2つの角が与えられた三角形の1つの外角を求めることができる」の校内正答率が72.7%で、市71.8%の正答率と同程度であった。 ●「正八角形の作図方法から、円の中心のまわりにできる角の大きさと、正八角形の1つの内角の大きさを求めることができる。」の校内正答率が37.9%で、市43.5%の正答率より5.6ポイント低かった。	・正多角形の内角の和を求める際のきまりに気付けるように、授業中に話し合い、考えを練り合う場面を設けていく。
変化と関係	○単位量当たりの大きさでは、面積と人物の込み具合を求める問題の校内正答率が84.8%で、市78.0%の正答率より6.8ポイント高かった。 ●単位量当たりの大きさの速さの問題で、速さの違う二人が同時にゴールできる距離を考える問題では、校内正答率が33.3%で、市42.0%の正答率より8.7ポイント低かった。	・単位量当たりの大きさの問題では、平均・速さ・込み具合など様々な問題形式に慣れさせる。
データの活用	○いろいろなグラフの読み取りでは、棒グラフの読み取りの校内正答率が78.8%で、市70.5%より8.3ポイント高い。 ●データの見方では、最頻値の理解が不十分である児童が多いことがわかった。	・折れ線グラフや棒グラフ・円グラフなどの見方については、算数科だけでなく社会科など、グラフが出てきたときに繰り返し指導することで定着を図る。 ・データの見方では、難しいデータ特有の用語を確実に教え、データを見ながら用語と表している数値について対応させる作業を繰り返し指導する。